

Title	A Comparison of Innovative Management Practices in Japan and Sweden - 日瑞比較に見るイノベーション型経営 -
Sub Title	
Author	小宮山結美子(Komiyama, Yumiko) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第999号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0999">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0999</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 小宮山結美子

主査 奥村 昭博

副査 小林 規威

青井 倫一

所属 奥村 昭博 研究室

## A Comparison of Innovative Management Practices in Japan and Sweden

### —日瑞比較に見るイノベーション型経営—

現在、企業は21世紀に向けて新しい環境造りが必要となって来た。脱成熟化やパラダイム変換を行うためにもイノベーションは不可欠と思われる。本研究はいかにしてイノベーションを起こす機会を作るかが第一の目的である。また、第二の目的として、このイノベーションの担い手は企業家であり、したがって、その企業家を輩出する環境要因は何であるかを主として、その組織特性の観点から考察する。そしてそれらをヨーロッパ、とりわけ私の交換留学先であるスウェーデンとの比較研究において相違を追求し、明らかにする事を試みた。スウェーデンはとりわけグローバルイノベーションが19世紀後半から始まり、日本より約1世紀足らず早く、それがどのように企業内組織特性と結びついているかを分析した。

研究方法はプロジェクトの方法やベンチャーシステムをインタビューによって調査し、対象となる企業はスウェーデンにおいては、ABB, ERICSSON, 日本の同業種として東芝、NECを取り上げた。日本は常に米国を手本として来たが、文化面や地理的にも日本とアメリカの中間に位置するヨーロッパとの比較研究において、これらの調査した企業から両国の経営方法の差を組織の観点から写し出し、イノベーションの機会や企業家輩出の要因を探り出した。

その結果、製品開発などのR&D部門の国際化や、プロジェクトなどの柔軟な組織を企業内に設けることによる効果を導きだした。